

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
21	川崎市立今井中学校	千葉 葉子

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身の健康 ○自他の尊重 ○生き甲斐の発見	・確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現できる教育の推進 ・思いやりのある豊かな心を育てる教育の推進 ・健やかな心身を育てる安心安全な教育の推進 ・体験的な学びを通して自ら考え行動する力を育てる教育の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力 ○授業改善 学校教育活動アンケート 肯定的な回答の％ (生徒・保護者) ⑦「授業の工夫・わかりやすい授業」(82・62%) ⑩「授業への意欲的・積極的な取組」(84・77%) ○指導と評価の一体化 学校教育活動アンケート ⑨「学習評価」(87・67%) ○支援教育 学校教育活動アンケート ⑧「学習環境づくり」(78・77%)	○主体的・対話的で深い学びを推進する授業改善 ○適正な学習評価と指導と評価の一体化の充実 ○支援教育の充実 ・ねらいを明確にした「できた・わかった」が実感できる授業の実践 ・授業力と見取る力の向上を目的とした校内授業研究の推進 ・評価規準・ガイダンスシートの提示と多面的な評価による教科指導の実践 ・授業のユニバーサルデザインの実践 ・支援を必要とする生徒への個別対応の充実 ・学習室の有効な活用	○各教科の指導主事を要請した校内授業研究を3年間継続し、各教科で具体的な指導を受け授業改善に努めた。学習の見直しを持たせることを目的としたガイダンスシートのフォーマットや内容を見直した。分かりやすい授業や支援教育の視点からも次年度に向けて統一化を図りたい。 ○昨年度から校内で統一した評価方法を継続し、生徒・保護者に具体的に説明し学習評価の理解に努めた。評価のための指導にならないよう3観点を多面的に評価することを継続し、指導と評価の一体化を目指す。 ○支援コーディネーターを中心に、スタディサプリアの実施や別室対応、取り出し授業等、二次支援の充実を図った。支援が必要な生徒の状況を把握し、通級指導教室や関連機関と連携を図りながらケース会議を実施し、学校全体で支援教育に取り組んだ。県立中原支援学校の参観授業を実施し、教職員の特別支援教育の理解に努めた。	○育てたい生徒像を踏まえ、学校全体で研究テーマを掲げ授業力向上を図る。日常的に互いの授業を見合う習慣をつけ、授業について語り合う学校風土を作り、より良い授業づくりを実践する。生徒の主体性を育み教師がファシリテートする授業を推進し、生徒が楽しく意欲的に取り組むことができる授業を実践する。 ○評価の妥当性・信頼性を高めるため、各教科各単元の評価内容を精査し、ガイダンスシートを通し、各授業で学習評価についてわかりやすく説明をする。また、形成的評価の重要性を認識し、指導と評価の一体化を図る。 ○学習室の環境を整え、二次支援の充実を継続する。コーディネーターと生徒指導担当を窓口として、生徒の教育的ニーズの把握に努め、教職員の共通理解のもと組織で支援教育に取り組む。各教科担任が共通で実践できる一次支援について年度初めに研修等で徹底する。教職員全体で特別支援教育の理解を深め、生徒と共に共生社会への理解につなげる。

2	<p>豊かな心</p> <p>学校教育活動アンケート ①「楽しい学校生活」 (82・83%) ②「積極的な取組・ 好ましい集団づくり」 (83・85%) ③「思いやり・認め合い」 (91・72%) ④「社会生活のマナー」 (91・79%)</p>	<p>○道徳教育の推進 ○生徒主体の教育活動の充実 ○かわさき共生*共育プログラム活用の充実 ○校内いじめ防止対策・支援会議の充実 ・生徒の実態に応じた計画的な道徳教育の実践 ・生徒の活躍の場の確保とリーダーの育成 ・学校行事を通じて、自他の尊重と自己肯定感の育成 ・成功体験と感動体験の充実 ・エクササイズの実践と効果測定による集団づくりの充実 ・きめ細やかな生徒指導 ・未然防止と迅速なケース会議の対応</p>	<p>○各行事において生徒の活躍の場を尊重し、生徒主体の教育活動が実践できた。体育祭では表現のプログラムを取り入れ、リーダーの育成を図った。 ○様々な活動のねらいに目指す子ども像を取り入れ、教職員と共通理解を図りながら教育活動の充実に努めた。 ○週1回の校内いじめ防止対策・支援会議では、情報交換を密にし、いじめ等の生徒指導の事案に対し組織的に迅速に対応したが、日頃の生徒との丁寧なかかわりを通じて、未然防止に努めたい。</p>	<p>○道徳教育を充実させ、生徒が安心して自分の考えを表出できる環境を整え、道徳教育の充実を図る。 ○机上の学習だけでなく、生徒が自ら開いたり見たり体験したりできる活動を多く取り入れ、心を耕す機会を充実させる。また、子どもを真ん中にした教育活動を念頭に置き、生徒が活躍できる場の確保とリーダーの育成、生徒主体の行事の充実を図り、豊かな心の育成に努める。 ○生徒と教職員との信頼関係のもと、共生*共育プログラムを効果的に運用し、より良い学級・学年づくりに役立てる。 ○不登校やいじめ等の対応について未然防止に努め、初期対応を大切にチームで対応する。次年度も警察の方を講師に生徒・保護者へのSNSトラブル等の講演を継続する。</p>
3	<p>健やかな心身</p> <p>学校教育活動アンケート ⑤「健康で安全な生活」 (80・86%) ⑥「適切な教育相談」 (82・65%)</p>	<p>○基本的な生活習慣の確立 ○心身の健康を自己管理する能力の育成 ○教育相談の充実 ○適正な部活動の運営 ○防災訓練の充実 ・あいさつ運動の継続 ・熱中症対策や情報モラル教育の実践 ・適切な健康診断の実施 ・傾聴を心掛けた生徒が安心して相談できる環境づくり ・安全で充実した部活動の実践 ・訓練等を通じた防災感覚の育成</p>	<p>○年3回実施している教育相談アンケートの内容を見直し、傾聴を心掛けた教育相談を実施した。生徒が困りごとを発信しやすい環境整備を心掛けた。 ○生徒会活動の一環として、年間を通してあいさつ運動を継続しているが、活性化できていない現状もある。基本的な生活習慣や社会性を育成するためにも継続する。 ○生徒手帳をカード方式に変更し、「今井中入門」の内容を検討し、学校のルールについて全職員で共通理解を図った。今井中入門は端末で保護者も確認できるようにした。 ○心肺蘇生法と不審者対応の職員研修を実践例を挙げ実施し、教職員の緊急時の対応やリスクマネジメントを養うことができた。避難訓練の内容を見直して実施し、生徒の振り返りから防災感覚の向上につながったことがわかった。中原警察署の方を講師に招いてのSNSトラブルについての講演は、次年度も継続し、情報モラル教育と未然防止に努めたい。健康診断は適正に実施された。</p>	<p>○教育相談アンケートの更新と教育相談後の継続的な対応を実施する。安心・安全な学校生活のために傾聴の姿勢で生徒に寄り添った関りを大切にしたい。 ○あいさつ運動は、生徒主体の活動として継続し、生徒の基本的な学習習慣の定着を図る。学校生活のルールについては、生徒会を中心に十分に協議の場をもち、柔軟に対応する。 ○熱中症やアレルギー、怪我等の対応について周知し、教職員のリスクマネジメントを養う。 ○学校防災教育の充実を図り、生徒・教職員の防災意識を高める。 ○健康診断について、学校医と協議の上、適正に検査を実施する。</p>

4	<p>生きる力</p> <p>学校教育活動アンケート</p> <p>①「楽しい学校生活」 (82・83%)</p> <p>②「積極的な取組・好ましい集団づくり」 (83・85%)</p> <p>⑩「学校の予定を丁寧に伝えている」(79・76%)</p> <p>⑫「学校に出席できる機会を設けている」 (80・85%)</p>	<p>○3年間を見通した総合的な学習の時間の充実</p> <p>○生きる力を育む特別活動の充実</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の推進</p> <p>○地域に開かれた学校づくり</p> <p>○小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災教育の実践 ・様々な行事や体験活動による人間形成能力の育成 ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活性化 <p>・HP・学校だより・説明会・公開週間での情報発信</p> <p>・小中交流会の充実</p>	<p>○3年間を通じた総合的な学習の時間に防災学習を位置づけ、各学年で内容を工夫し取り組んだ。PTA主催の今井中フェスタと同日に防災フェスタを開催し、消防署や消防団、中原区役所等と連携した体験学習を通して、生徒の学びが深まった。</p> <p>○コミュニティスクールでは、生徒と地域の交流から相互理解につながった。また、地域教育会議で中学校区の小学校とリモートで子ども会議を開催できた。今年度は小学生6年生の体験学習や小中交流会も実施でき、小中の情報交換ができた。年3回の今井中ボランティアや様々な地域との活動を通して、地域に開かれた学校づくりにつながった。学校公開週間に小学生の保護者の来校を設定したことは、中学校への理解を深めるために有効であった。</p>	<p>○3年間で育成する総合的な学習の時間の内容を再考し、思考が深まる系統だったカリキュラムを編成する。地域の関係機関と連携を図り、防災フェスタは継続する。生徒の防災意識を高め、中学生ができることを増やし、地域での役割について考えさせる。</p> <p>○職業や進路に向けての自分の生き方について考える内容も盛り込み、キャリア在り方生き方教育を実践する。地域貢献の役割もある今井中ボランティアの活動範囲が広がるよう生徒に働きかける。コミュニティスクールの活性化を図り、地域が求める学校像を踏まえ、市制00周年も見据えた教育活動を工夫する。</p> <p>○段々とペーパーレス化が進む中、HPやミマモルメの利用法を工夫する。</p>
<p style="text-align: center;">学校関係者の評価</p>		<p style="text-align: center;">学校運営のまとめ</p>		
<p>○学校と地域がかかわることができる機会が増えてきたことで、学校理解ができた。避難所運営会議や地域教育会議、今井中フェスタや防災フェスタ等での学校との関わり方を検討したい。</p> <p>●今井中ボランティアと防災教育を軸として地域との関わりを活性化させる。コミュニティスクールでの学校への意見を参考に開かれた学校づくりの推進とより良い学校運営に努めたい。</p>		<p>○適正な学習評価と指導と評価の一体化の充実</p> <p>○支援教育の充実</p> <p>○生徒主体の教育活動の充実</p> <p>○傾聴を心掛けた教育相談の充実</p> <p>○3年間を見通した総合的な学習の時間の充実</p> <p>●学習の見通しと生徒が主体となる授業改善</p> <p>●教育的ニーズの把握と円滑な学習室運営</p> <p>●体験活動から培う豊かな心の育成</p> <p>●生徒に寄り添った指導と未然防止</p> <p>●防災教育の充実と総合的な学習の時間のカリキュラムの構築</p> <p>●教職員の業務のスリム化の推進</p>		